

平成 25 年度
第 1 回中間市子ども・子育て会議

日時：平成 25 年 11 月 29 日（金）14 時半

場所：市役所別館三階特別会議室

【委員】

区 分	氏 名	備 考
福岡教育大学	倉光 晃子	会長
西南女学院短期大学	松尾 裕美	副会長
公募（小・中学生）	川口 麻里	
中間市 P T A 連合会	熊谷 憲一郎	
中間市 P T A 連合会	安田 茂雄	欠席
中間市民生児童委員協議会	植弘 千鶴	
遠賀中間地区保育所連盟	上村 初美	
遠賀郡中間市私立幼稚園連盟	船津 正行	
中間市小学校長会	森崎 義博	
中間市中学校長会	村田 健吾	
福岡県宗像児童相談所	稲生 孝二	代理吉田
中間市教育委員会	深見 卓也	
中間市社会福祉協議会	久内 勝	
ほのぼのネットワーク	藤田 千草	
中間商工会議所	福田 勝	
連合福岡・遠賀中間地域協議会	五郎丸 恵理子	
N P O 法人（ひかりのさと）	下川 はる子	

【事務局】

職 名	氏 名
福祉事務所長	白橋 宏
こども未来課長	船津 喜久男
健康増進課（保健センター所長）	岩河内 弘子
健康増進課（保健センター係長）	丸山 千恵
健康増進課（保健センター係）	濱田 亜希子
こども未来課（さくら保育園長）	山本 友子
こども未来課（子育て支援センター長）	嶋田 由嘉吏
こども未来課（家庭児童相談1係長）	岩切 晶子
こども未来課（家庭児童相談2係長）	木村 千賀子
こども未来課（子育て係長）	小林 一弥
こども未来課（子育て係）	山本 幸樹
こども未来課（子育て係）	北里 雄二

【配布資料】

- ・平成25年度 第1回中間市子ども・子育て会議 次第
- ・中間市子ども・子育て会議委員名簿
- ・資料1 子ども・子育て関連3法について
- ・資料2 基本指針の概要
- ・中間市子ども・子育て会議条例
- ・ニーズ調査等作業内容
- ・中間市子ども・子育てに関するニーズ調査票案（就学前児童用・小学生児童用）
- ・中間市子ども・子育て会議スケジュール

【審議内容】

6. 議事

(1) 中間市子ども・子育てに関するニーズ調査内容検討について

倉光会長：それでは、本日の議題はニーズ調査の確認となっているので、事務局より願います。

事務局：説明させて頂く。資料①、資料②、ニーズ調査等作業内容、中間市子ども・子育て会議スケジュール、中間市子ども・子育てに関するニーズ調査票の就学前児童用、小学生児童用となるが、お手元にあるだろうか。

まず、資料①をご覧頂きたい。一部抜粋させて頂き、2 p と 3 p について説明する。(資料①子ども・子育て関連3法についての説明)。中間市子ども・子育てについてご審議して頂くことになる。

事務局：引き続き、ニーズ調査について説明させて頂く。就学前児童用と小学生児童用であり、本市に基づいた調査票を作成させて頂いている。

(ニーズ調査票就学前児童用、小学生児童用について説明)

対象者は、就学前児童の保護者、小学生児童の保護者で市内に住んでいる小学校6年生までの世帯と考えている。就学前児童用は1,400件、小学生児童用1,000件合わせて2,400件を想定している。配布に関しては、就学前児童は郵送、小学生児童は小学校にお願いして、回収も小学生児童は小学校にお願いしている。今回のニーズ調査は、重要なものとなり、各家庭に12月中に配布させて頂く。スケジュールをご覧頂きたい。(中間市子ども・子育て会議スケジュールについて説明)。今後のスケジュールに関しては、変更も考えられる。

また、ニーズ調査票の就学前児童用の20pの間35、小学生児童用の11pの間24だが、2択は難しいので「どちらとも思わない」というような選択肢を設けるとするのはどうだろうか。併せてご審議願います。

倉光会長：「思う」、「思わない」の選択肢について「どちらとも思わない」というような選択肢を設けるのはいかがか。

船津委員：良いと思う。

倉光会長：それでは設定するという事になったので、どういった選択肢が良いか。ご意見頂けたらと思う。

船津委員：「どちらでもない」というのはどうか。

倉光会長：「どちらでもない」という意見が出たが良いか。

村田委員：「思う」にしても、データにした時に活用できるのか。どの程度必要なのか、何を求めるのかによると思う。

倉光会長：事務局より願います。

事務局：程度を求めて頂く形ではない。理由があれば記入して下さいということで、付け加えるとすれば「わからない」といった項目がいいかと思う。

倉光会長：理由を書く時につながるものということで、他にご意見はないか。

植弘委員：真ん中に付け加えた方が答えやすいと思う。

- 倉光会長： もう一つ真ん中に「わからない」という項目を付け加えた方が、理由が答えやすいという意見が出ているがどうだろうか。
それでは、「わからない」という選択肢を設定するというごことをお願いします。
その他のニーズ調査についていかがか。
- 船津委員： 気になるところを言っていく。就学前児童用8 p 問 16 で、月に契約していることを定期的というのか、日によって定期的というのか。
次に、13 p 問 25 の「ア. 親族・知人にみてもらった」という部分について、近所の方にみてもらう場合もあるのではないか。昔はそうだった。続いて、問 25-1 だが、親族と知人は違うと思う。それから、14 p 問 26 にある「ファミリー・サポート・センター」は中間市にあるのか。
- 倉光会長： 今の意見について、事務局をお願いします。
- 事務局： 8 p 問 16 については、月に契約していることが定期的ということである。13 p 問 25 に関しては、ご審議をお願いしたいと思う。14 p 問 26 の「ファミリー・サポート・センター」は、中間市にはないが北九州市にあるので通っている可能性がある。
- 倉光会長： では、13 p 問 25 「ア. 親族・知人にみてもらった」という部分に、「近所の方」を付け加えるというのはいかがか。答えやすいという視点からお願いします。
- 船津委員： 別にこだわっているわけじゃないが、近所付き合いが今、欠落している。お隣同士で助け合う文化がなくなっているの、その文言があると気付かれる保護者もいるのではないかと思う。
- 倉光会長： その意見についていかがだろうか。
- 植弘委員： そのままでいいと思う。
- 倉光会長： どのような分野を把握したいかということだと思う。どういう部分を知りたいのか。
- 藤田委員： 自分だとしたら「1. あった」に丸をつけて、「カ. その他 ()」のカッコの中に「ご近所の方」と記載すると思う。それが分かったら、問 25-1 で「カ. その他」に丸をした人というのも付け加えられたらと思うが。
- 倉光会長： ご近所を自然に導き出すようにしておくという意見についていかがか。どういった資源かというのを把握する時、あまり多くない方がいい。分けるのが可能だと思う。「ア」では、身内の方などの近い存在の方で、「カ」では、それ以外のもの、近所を含め活用状況を知るのにはいいかと思う。「カ」には、様々な意見が出てくると思う。分析上、配慮が必要になってくると思うが。
- 村田委員： 別々だと逆に迷う。親戚は預けやすいが、近所は預けにくいとなる場合があると思う。
- 倉光会長： 問 25-1 では、「ア」のみに丸をつけた人ということで、「カ」は含まないでよいか。では、「ア」のみとさせて頂く。ありがとうございます。他には何かないか。
- 船津委員： 18 p 問 29-7 は、制度の趣旨としては1歳までは育児休業を基本としているというところで、あえてこの質問と思うが、私としてはこれが入っていると1歳前でも働けると誘導させてしまうと思うのだが。

倉光会長： この設問の意図について事務局お願いする。

事務局： 問 29-7 の設問については、問 29-1 の設問の流れからきている。育児休業をとっておられる方に伺うようになっており、1歳前後が統計的に多いので設定している。

倉光会長： その他何かないか。

船津委員： 小学生児童用の 6 p 問 13、教育・保育とあるが、何を想像されるのか。定義がないと困るのではないか。次に、3 p 問 10 で、就労状況として母親と父親とあるが、両方いらっしゃる家庭もあると思う。続いて、12 p 問 27 の設問の中で、「14. 子どもらが自ら成長できるような体験活動を増やしてほしい」とあるが、体験活動とは何だろうと思う。自然体験だと分かるが。

事務局： まず、6 p 問 13-1 に記載がある、教育・保育の部分は、学童保育も含め見て頂けたらと思うが、分かりにくいので外して良い。次に、3 p 問 10 だが、ここは母親と父親に関する設問となるので。

倉光会長： 12 p 問 27 の「14.」について何かないか。具体的な事業を入れておくといいいのでは。

事務局： 中間市の小・中学校においての体験もあるので、自然体験となると狭まる。

倉光会長： では、「14.」はそのままでよいか。

(2) その他

五郎丸委員： 就学前児童 1,000 件、小学生 1,400 件とのことだが、回収率ほどのくらいを思っているのか。

事務局： 中間市次世代育成支援後期行動計画では、全体で 40%程度だった。なるべく高い方が良いので、小学生では学校で配布・回収をお願いしたい。データがより正確になるよう 50~60%までもっていきたい。

五郎丸委員： 就学前児童に関しては、せっかく本日幼稚園連盟の方などいらっしゃるのので、来ていらっしゃる方に関しては、協力願っていいのでは。

上村委員： 公平が良いので、就学前児童は郵送の方がいいと思う。

深見委員： この調査票は抽出か。配る子と配らない子の配慮は。

事務局： 抽出し、選別し、お名前をつけて配布を行う。配られない子については、別途あるので、全く家庭にいかないことはない。

倉光会長： その他何かないか。事務局からはあるか。

事務局： 本日はありがとうございます。ニーズ調査票を再度確認し、会長の確認をとり、皆様に配布したいと思う。

倉光会長： 皆様はいかがだろうか。

上村委員： 良いと思う。教育・保育に関して、一般の人達は分からない。色々混在すると思う。家庭の保育は違う。会長もしっかり見て頂けたらと思う。

上村委員： 分かりにくい制度だと思う。保護者が分からずに調査票は届くのか。

事務局：分かりにくいと思う。基本指針を説明すると余計分かりにくい。表紙にあるように、要望など実態把握とさせて頂きたい。

7. 閉会

事務局：次回は、2月下旬にニーズ調査の集計結果と見込み量の検討に入る。

倉光会長：これにて、第1回中間市子ども・子育て会議を終了する。ご協力ありがとうございました。お疲れ様でした。

○次回第2回中間市子ども・子育て会議予定：平成26年2月下旬。

- ・子ども・子育てニーズ調査の集計結果報告
- ・教育・保育の量の見込みの検討

以上